

宿題『橋』 二人選

橋本 瑞男 選

佳作

近いのに心の橋が架けられず  
 橋脚を掬う豪雨が止めど無い  
 村はずれ君と遊んだ丸木橋  
 東京へリオから架ける長い橋  
 ボランティア途上国との橋渡し  
 レインボー渡りねぐらは千葉都民  
 自転車で瀬戸の海道走り切る  
 濁流に力つきたか折れた橋  
 残る名に春樹真知子を懐かしむ  
 老愁にマジソン郡の橋はなく

五客

核の橋権力誇示し渡る国  
 天皇の孤愁を映す二重橋  
 ピンポンが恋の掛橋実る愛  
 遷宮へ渡る端から身を正す  
 沈下橋先人の知恵永遠に生き

三才

石橋を壊し渡らぬ銀行も  
 吊り橋のゆれに便乗しがみつく  
 橋越せば母の待ってる峡の里

宿題『橋』 二人選

津田 暹 選

(没なし 全句掲載)

前 抜

吊り橋をまなこ眩んで引き返す

和子  
 南穂子  
 あさじ  
 弘  
 貴香子  
 南穂子  
 道花  
 和子  
 ひま人  
 一星  
 弘 純  
 一星  
 ひま人  
 南穂子  
 道花  
 弘 純  
 あさじ  
 弘

弘 純

吊り橋のゆれに便乗しがみつく  
吊橋の先に絶景元氣くれ  
橋越せば母の待つてる峡の里  
遷宮へ渡る端から身を正す  
村はずれ君と遊んだ丸木橋  
核の橋権力誇示し渡る国  
誰かから誰かへ虹の橋  
残る名に春樹真知子を懐かしむ  
この橋を渡れば匂い違う町  
石橋を壊し渡らぬ銀行も  
レインボー渡りねぐらは千葉都民

佳作

ピンポンが恋の掛橋実る愛  
ボランティア途上国との橋渡し  
鉄橋に速度落して花火観せ  
自転車で瀬戸の海道走り切る  
豪雨後橋も影なくうろこ雲  
たてつづけ嵐数多の橋墜とす  
濁流に力つきたか折れた橋  
橋脚を掬う豪雨が止めど無い  
近いのに心の橋が架けられず  
日本の歴史見守る二重橋

五客

いくつかの橋をくぐって首都を観る  
お台場の夏に阿る虹の橋  
老愁にマジソン郡の橋はなく  
虹の橋渡ればあるかユートピア  
君が代の長き歴史を刻む橋

三才

あさじ  
道花  
弘  
南穂子  
あさじ  
弘純  
弘  
ひま人  
瑞男  
南穂子  
弘純  
ひま人  
瑞男  
貴香子  
瑞男  
道花  
貴香子  
瑞男  
和子  
南穂子  
和子  
あさじ  
和子  
一星  
一星  
貴香子  
ひま人

沈下橋先人の知恵永遠に生き  
東京へリオから架ける長い橋  
天皇の孤愁を映す二重橋

道花  
弘  
一星

\*『橋』の例句を別紙により四十六句鑑賞した。

### 雑詠 互選句

- |   |    |                 |     |
|---|----|-----------------|-----|
| ③ | 1  | 永、巨泉昭和の星が逝った夏   | 貴香子 |
|   | 2  | 男退けスカートで椅子占められる | 和子  |
|   | 3  | 氣を楽にチャンネル回す勝ゲーム | 弘純  |
| ① | 4  | 子が巢立ち二人それぞれ一人部屋 | あさじ |
|   | 5  | この暑さ乗り切る程の力失せ   | 道花  |
| ⑧ | 6  | 外づらで暮らせばきつといい夫婦 | 正   |
|   | 7  | 助けての違反チャイナを掬い上げ | 南穂子 |
| ① | 8  | 次の会出ます分身ロボットで   | 正   |
| ② | 9  | 手も足も出ぬ国連に北の核    | 一星  |
| ② | 10 | 天皇は孤独のままに秋に入る   | 一星  |
|   | 11 | トキオまで課題を追える命あれ  | 弘純  |
| ① | 12 | 長月にリオの熱気がわだかまり  | 瑞男  |
|   | 13 | 米英日舵取り女子に委ねられ   | 瑞男  |
|   | 14 | 程々の距離を取り持ち半世紀   | ひま人 |
|   | 15 | 待合わせ同じ出口の右左     | 貴香子 |
| ① | 16 | 無人駅人待ち顔の秋茜      | ひま人 |
| ④ | 17 | 喪服着てそっと喪服の声を出す  | あさじ |
| ① | 18 | 四年後の五輪の暑さ覚悟して   | 和子  |
|   | 19 | リオからの金銀銅で眠れない   | 南穂子 |
| ① | 20 | 礼文の風弟の声蘇る       | 道花  |

## ☆ 今月の佳句鑑賞

◎『橋』

天皇の孤愁を映す二重橋

家根 一星

止むにやまれぬビデオメッセージでの生前退位の御意志、その後関係者の動きは鈍い。ご高齢なのに気掛かりではある。一般参賀以外は国民と一線を課している二重橋。その奥の天皇の孤独を思うと同情の念が強く湧いてくる。孤愁という言葉がピッタリで重い。

◎『自由吟』

外づらで暮らせばきつといい夫婦

佐藤 正

外面のいい夫は多い。これも生きるため、生活を支えるための処世術の一つなのであろうが、妻の身にしてみれば面白くない。家の中でも同様の思い遣りや優しさが欲しい。客観的に詠んではいるが我が家の事なのかもしれない。そうすればいいと気が付くだけでもご立派。

## ☆ 優れた鑑賞文の鑑賞

優れた鑑賞文に触れることによって、句の読解力を強め、結果として作句力・選句力の向上につなげたい。

机持つ仕合わせ孤独免れる

河村露村女

女流柳人の露村女さんは老いられても日々、いそしむ道があらわれて、机を友とされる。このたのしみこそ、かけがえのないもの。ことに女性がこう詠われるのはめでたいきわみ。息子や嫁の

グチばかりいわないで、自分だけの楽しみを早く確立したいものである。

熟年女性のグチに対抗する、熟年男性の宿弊は名誉欲であろう  
\*『川柳でんでん太鼓』 田辺聖子著 より



次回のご案内

11月12日(第二土曜日)

課題 『靴』三句 (二人選 当日二組出句)

自由吟 (来月互選用) 二句 (連記で可)

\*お休みの場合は課題、雑詠共、句会日一週間前迄に  
遅宛に直送下さい。急な場合は直前でも結構です。  
(郵送・FAX・メールで可)